

教育センター事業 令和4年度（前期）報告

焼津市教育センター「みらい」

1 教育大綱の理念浸透や授業改善の推進

教育大綱の理念「優しく 強く 愛しい人」や学校教育の重点「失敗や間違いを恐れない子、疑問を言える子」について、学校訪問等で周知、浸透を図っている。全国学力学習状況調査の結果分析をとおり、学力の向上には、生活習慣の改善や授業改善が必要となることを保護者、教職員に報告書や市 HP を通じて周知した。

2 実施事業報告

(1) 「子どもの豊かな学びの創造」

- ① ステップアップ教室 ～小学3年生対象の放課後学習支援～
学習が難しくなる小学3年生の希望者を対象に教員OB等のボランティアを活用し、算数の学習支援を実施。前期7校対象44回実施
- ② サマーステップアップ教室 ～中1ギャップ解消に向けた夏休み学習支援～
生活や学習環境の変化により不登校などの不適應を起こす中1ギャップの緩和につながる学習支援の実施。全小中学校区対象16回実施
- ③ 外国語指導支援
市内全小中学校に市雇用外国語指導助手(A L T)4人、派遣業務委託10人を派遣。

(2) 「特別な支援が必要な子どもの安心・安定」

① 特別支援教育の推進

ア 巡回相談

各学校の要請により、特別な支援を要する児童生徒の観察、検査、学校や保護者への助言、医療機関への連絡等を行った。

9/30現在の希望者278人(うち82人は令和3年度未実施分)(昨年度年間342人)

9/30現在の実施者135人

イ 就学支援

市就学支援委員会2回、専門家チーム会議2回、特別支援教育連絡協議会2回実施

② 外国につながる児童生徒支援

ア 支援コーディネート

外国につながる児童生徒及び保護者を対象とした就学希望の聞き取り、ガイダンス、日本語指導、学習支援等に関する実施計画作成及び、在籍学校との連絡調整を実施。在籍児童生徒数431人(昨年度年間370人)全22小中学校対象

イ 外国につながる児童生徒支援員の派遣

外国につながる児童生徒の実態に応じた日本語指導、学習支援、相談活動を実施。おおむね2か月ごとに支援体制の見直し

特別の教育課程を編成し日本語指導を実施した児童生徒数367人(昨年度年間280人)

- ・初期指導実施児童生徒数26人(小15人、中11人)(昨年度年間15人)
※初期指導・・・1日1～2時間の指導を週2～4 4か月程度継続(個の実態に応じて)
- ・継続指導実施児童生徒数341人(小275人、中66人)(昨年度265人)

※継続指導・・・1日1時間程度の指導を週1日程度(個の実態に応じて) 9/30 現在
ウ プレ教室

市内小中学校に入学を予定する児童生徒のうち、日本語だけでなく、母語の読み書きが未定着、また、コロナの影響で母国の学校にほとんど通えていない子供などを対象に、母語の読み書き練習や日本の学習につながる学習を教育センター内「MIRAI 教室」で実施し、入学後のスムーズな適応につなげている。

対象児童生徒 16人 のべ 132人

(3) 「子どもにとって魅力ある教師の育成」

① 若手教員授業力向上研修

経験年数の少ない若手講師、2年目・3年目教員を対象に授業を訪問し、授業づくり、学級経営等について指導、支援を実施。

研修員 65人、授業訪問 112回 授業力向上研修 8/22 実施

・大変参考になった。学習指導要領と学校の教育目標、子供たちの実態を照らし合わせて、今つけるべき力は何かを受け止め、授業改善に努めたい。(8/22 研修員感想)

② みらいアカデミー

教職員採用試験を受験する意思のある講師、大学生等を対象に教職員としての基礎的知識や技能を身に付けるための講座や演習を行う。

第Ⅰ期 研修員 20人、10回実施(4～8月)

第Ⅱ期 10月15日開講式 研修員 18人 24回実施予定

③ みらい講座

教職員のニーズを基に、自主参加型講座の開催。

6/1 「1からはじめる Chromebook」 8/23 「1からはじめるジャムボード」

8/31 「掲示物づくり」※コロナ感染拡大防止のため延期

3 成果と課題

課題1 巡回相談希望者への対応

特別な支援が必要な児童生徒への支援の手立てを探る巡回相談の依頼が多く、3人の相談員体制で取り組んでいるが、対応が難しい状況である。実施が次年度にずれ込んだり、実施までに2～3か月程度かかったりする状況がある。

課題2 外国につながる児童生徒数の増加に対応するための支援

特に、フィリピンから入国する児童生徒が増えている。フィリピンでは、コロナの影響でここ2～3年間、休校となり、子どもたちは、学校での教育を受けていない。母語での読み書きもできない状況であるため、より多くの時間、プレ教室や初期指導が必要となる。現在は母語指導のできる支援員が限られているため、教育センターからリモートで学校をつなぎ、複数名を同時に指導している状況もある。